（２０１２年度山西大学奨学生レポート９月）

山西大学での一か月

後藤　千恵

最初のレポートは、山西大学における一か月間の生活の中で、特に印象深かったことについて報告させていただきます。

私は 8 月末に日本を出国し、山西省太原市にある山西大学に到着しました。まず、今まで一度も中国へ来たことのなかった私が数日間の生活の中で感じたのは、とにかく広い、大きい、ということでした。山西大学は、学校の敷地内に、学生だけでなく、先生や職員の方たち、その家族など多くの人々が生活するのに必要なスーパーや商店街、幼稚園など様々な施設があり、まるで一つの大きな町のようです。さらに、大学外へ出てみると、片側 4 車線の道路が通っていて、多くの車やバスが通行しています。

次に、印象深かったのは、日本と変わらない人の温かさと、日本よりも人との距離が早く縮まるということでした。私の中国語が十分通じないこともあって、お店で数回買い物をしただけで顔見知りになり、少しずつ話すようになってから留学生だと伝えると、「食べ物には慣れた？」「太原の気候はどう？」など、簡単な言葉で色々と話しかけてくれるようになりました。また、山西大学の日本語学科の学生と交流する機会があり、私も参加させていただきましたが、私の方から言葉が出ずに黙ってしまっていても、積極的に話しかけてくれましたし、9 月末に開催された運動会にも応援に来てくれました。

9 月中旬に日中間で問題が起きていた時は、数日間でしたが、大学側から安全のため大学外へ出ないようにと言われていましたし、市街で「魚釣島は中国の領土だ」という文字を見たりもしましたが、私の周りの中国の方々はそれ以前と変わらず接してくれました。さらに、運動会で同じ種目に参加した学生の方も、種目のルールや順番などを親切に教えてくれました。その後、街中にて日本語で話していても全く問題はありませんでしたし、不快な思いをすることもありませんでした。

両国の関係については何事もないのが一番ですが、日中関係の難しさ、また人々のこの問題に対する考え方や意思表示の方法の違いについて、私の狭い視野と行動範囲の中ですが、肌で実際に感じ、考えることができたいい機会であったと思います。

大学の正門前の道です。道幅が広く、交通量も多いので、横断が大変です。
また、この道沿いには様々な商店が立ち並んでいます。

学内にある、「许西」（シューシー）という名前の商店街です。
飲食店のほか、日用品もほぼこの中でそろえることができるので、
いつも人でにぎわっており、通るのが大変なほどです。